

第3回「県政ひざづめ談議」概要

○開催日時：平成19年7月3日 14:00～

○開催場所：身延町なかとみ和紙の里

〔司会〕

お忙しいところをお集まりいただきましてありがとうございます。
ただいまから、知事対話『県政ひざづめ談議』を始めさせていただきます。
本日の進行役を務めます、県の広聴広報課課長の田中です。
よろしく願いいたします。
それでは最初に横内知事からごあいさつを申し上げます。

〔横内県知事〕

皆さん、こんにちは。

知事の横内正明でございます。

今日は「県政ひざづめ談議」ということで、それぞれ皆さんお忙しいと思えますけれども、こうしてお集まりをいただきまして本当にありがとうございました。

この「ひざづめ談議」というのは、県民の皆さん、それぞれお仕事をお持ちになって色々な苦勞をされながら日々生活をしておられるわけでありましてけれども、そういう皆さんから本音の生の声を是非きかせていただいて、そして県政でお役に立てることがあればお役に立ちたいし、県政の運営に反映をさせていただきたいということで始めているものでございます。

したがってどんな話をするか、どういう質問をするか、もう一切そんなことはあらかじめお聞きもしないで、皆さんの日ごろお考えになっていることをそのままお話になっていただくと、そういうことでございまして、是非肩肘張らずに、ざっくばらんに日ごろ思っておられることをお話をいただければありがたいと思えます。

とりわけ、この西嶋和紙というのは山梨県の誇る伝統工芸の一つでございまして、大変に厳しい事業環境の中にもありながらも大変ご努力をなさっておられる。

そういう中で若い皆さん方が新しい動きをしておられて、県としても是非ご支援をしていきたいと思っているわけでありまして。

今日は、皆さん方のいろんなお話を聞かせていただくのを楽しみに、そしてどうしたら県政として皆様方にお役に立てるか、そんなことを一生懸命考えていく、そんな場にしたいと思っておりますので、どうかよろしく願い申し上げます。

今日はありがとうございました。

〔司会〕

本日出席しております県と町の担当職員を紹介させていただきます。
まず、県の地場産業の振興を担当しております清水工業振興課長です。
それから、町の政策全般を担当しております依田政策室長です。

本日は身延町内で和紙の製造や加工などに携わっておられる皆様方と、「和紙産業の今と新たな試み」についてをテーマに意見交換を行います。

県ではやまなしブランド戦略を政策の大きな柱といたしておりますが、本県の優れものであります和紙について産業としてより発展させるためどうすればよいか。またそれには何が必要かという観点で参加者全員で話し合いを進めて行きたいと思っております。

また意見を聞きながら気がついたことなど、何でも結構でございますので、思うところを自由に活発に発言していただきたいと思っております。

本日いただいた皆様のお考え、それからご意見は今後の県政の参考にさせていただきます。

それから本日の「県政ひざづめ談議」の概要につきましては、県のホームページで個人情報情報を伏せて公表することになっておりますので、あらかじめご了解いただきたいと思っております。

それではご発言をお願いいたします。

【参加者】

簡単に組合などの事をお話させていただきます。

ご承知のとおり、私達のところは書道用紙を作っております、年々厳しい状況に置かれています。

一つは外国からいろいろ安い同じような紙が入っているということと、それともう一つは働いていただいている職人さんが、高齢化でどんどんいなくなりました。

それが理由で、ここ数年は毎年のように工場が閉鎖されるような、事態になっております。

そこで役場の企画の方といろいろご相談いたしまして、今年再チャレンジ事業というのを行いまして、それで新しい職人さんの育成事業を行う計画になっております。

その概要は、まず近在の職人さんになってもいいよという方を募りまして、1年掛けまして職人さんの育成といいますか、養成をしまして、そして1年たった4月の時点で各工場のほうへ行って仕事をしていただく、そんなふうな事業を今年行うことになっております。

それで何とか従業員を確保しまして、多少上向きになっている紙の需要に応えたいと、そんなふうに思っております。

【知事】

今、多少紙の需要は上向きになっているという感じですか。

(先程) 見せていただいたような、ああいう新しい工夫を凝らした和紙が売れているということでしょうかね。

【参加者】

ぼつぼつですが、これからまた知事さんにも宣伝していただいたりしながら、どんどん売っていこうかなと思っております。

書道用紙のほうはある程度の人口が書道界にございますので、後は、やめていく工場があつたり、そんなふうで需要と供給のバランスが微妙に保っているような状況ですが、それではいけないということで新しい紙作りに取り組んでいます。

〔知事〕

今、ここは会社としては十社ぐらいですかね。従業員数というのは大体どのぐらいおられるんですかね。

〔参加者〕

家族従業員以外といいますと、本当にもう20人弱ぐらいだと思います。

〔知事〕

その再チャレンジ事業で、今何人ぐらいおられるんですか。

〔参加者〕

先日募集いたしまして、今、40名近く応募が来ております。

〔知事〕

これから選考して。

〔参加者〕

選考といいますか、紙を作る現場を見ていただきまして、よく納得していただいて、紙を作っていこうという方を見つけ出しまして、そして育成していきたいと思います。

〔知事〕

それは30人も40人も応募が来るということは、これは嬉しいことですね。

〔参加者〕

思いがけず・・・

〔知事〕

意外と大勢ではありませんか。

やっぱりそういう伝統工芸品みたいなものは見直されてきているということでしょうね。

実際それは最後まで続くかどうかは分からないけれども、それでもそういう意欲を持った人がそれだけいるということですね。

大体近在の人が多いですか。

〔参加者〕

今回は近在の人を対象に募集いたしました。

職人を一人前に育てるのには本当に時間とお金が掛かりまして、それをずっと補助金で助けていただきまして、何とかこれをものにして、何人でもいいから職人さんになっていただきたいと思っております。

〔知事〕

何人ぐらい最終的に職人さんになってくれればいいのかという感じでしょうかね。

〔参加者〕

来年の3月の時点で3、4人の方が残っていただければありがたいと思っております。

〔知事〕

余り大勢でも困るでしょうからね、給料を払わなければいけないから（笑い）

しかし、それは明るい話題ですね。

しかしこうやって拝見してもお若い方が多いですね。

皆さん大体30代、40代、20代、50代、大体そんな感じですね。40代中心というような感じですね。

〔参加者〕

60代は僕だけです。60も半ば過ぎると・・・

〔知事〕

同じです。（笑い）

あとの方はお若いですね。

組合が二つあって、労働組合もありますね。

〔参加者〕

雇用主のほうはここに見ていただいているような状況なんですが、実は職人さんの高齢化が非常に深刻な問題でして、今日は労組のほうから来ております。

〔参加者〕

職人の仕事は、朝から夕方まで身体を使う大変な仕事です。

〔知事〕

昔からある和紙の製造法とかをやっておられるでしょう。

何か新しい手法というか、機械はあることはあるんですね、今はね。

〔参加者〕

手漉き和紙簡易装置があります。

〔知事〕

やっぱり手漉きは手漉きですかね。

〔参加者〕

一番力のかかるところを機械化しまして、あと微妙なところは手でやります。

〔知事〕

手の、何ていうか楮^{こうぞ}の液をうまくやっていく、そのところはやっぱり同じように人間の熟練した技術でやらなければいけないわけですね。

〔参加者〕

そうです。そして一枚一枚漉くってやるんです。

〔知事〕

手漉き和紙だからね。（笑い）

機械で漉いたら手漉き和紙にならなくなっちゃうから。（笑い）

〔参加者〕

その作業の中で機械化出来ない紙を干すという作業、それが今一番、先ほどの職人不足というのもその作業の職人さんが不足しているんです。

今日はベテランの方もおります。

〔参加者〕

私も和紙産業に携わって50年、紙干しをさせていただいております。何か今若い人という話が出まして、ああ先が見えていいかななんてちょっと一人で喜んだんですが。

〔知事〕

紙の干す作業というのは、漉いたものをずっと重ねていきますね。重ねて行って、ある一定の厚さになったらそれを絞って、そして・・・

〔参加者〕

それを天日で乾燥します。

それで水気がなくなったところで、また私達の乾燥場というところへ行きまして水槽があるんですが、その水槽の中へ乾いた紙を浸して、そしてある程度浸ったらそれを私達の乾燥の手元へ持ってきまして、またそこで一枚一枚剥がして干すんです。

夏はそれこそ皆さん会社の人達はクーラーとか暑いとか言っていますけれども、私達の仕事は暑くも窓を開けると風で紙があおられて、仕事にならないし、クーラー入れるわけにもいかないし、汗かきかき自分で身体を動かして、そして自分で風を作って、そしてその中でがんばってやっています。

我慢して、我慢に我慢で。（笑い）

〔知事〕

あれは一回やっぱり乾かして、圧縮して乾かすんですね。乾かしたものをもう一回水に浸けるんですか。

〔参加者〕

水に浸けて戻す感じですね。

〔知事〕

これを戻して、多少糊などがついているからそれを流すような感じなんですかね。

〔参加者〕

ここの紙は、書道用紙は繊維が短くて、他の産地は楮こうぞとって大体20ミリぐらいの繊維なんですよ。

ここは藁わらとか古紙で、2ミリとか3ミリのせいで、それがうまく剥れない。それで、一度からからにして、そして再度水に浸けてやる。

〔知事〕

手間が掛かるものですね。
冷房などを入れたらうまくないんですか。

〔参加者〕

冷房もちょっと入れてみたんですが、ちょっとうまくないんですね。

〔知事〕

そうですか。暑い中で汗をかきながらやるのがいいということですね。（笑い）

〔参加者〕

乾燥の周りをぐるぐる回って歩くんですけどね。

〔知事〕

大変な労働ですね。
本当に神経使いますね、ちょっとで破れちゃいますからね。

〔参加者〕

そうです、もろいものですから、本当に丁寧に丁寧に一枚ずつ紙漉きさんが漉いてくださったものを、私達も丁寧に一枚ずつ上げて、なるべく良い製品に仕上がりますように心掛けてやっております。

〔知事〕

それで一枚一枚剥がしたものをもう一回また乾燥するのは、これは機械で乾燥するんですか。

〔参加者〕

剥がして乾燥機に貼るんです、鉄板に貼るんです。

〔参加者〕

その鉄板が燃えているんです。

〔参加者〕

だからクーラーを使うと逆になるものだから余り使えない。

〔知事〕

じゃあこういうもの（名刺）は一枚一枚そうするんですか。

〔参加者〕

そうですね、それは20枚ずつ作ります。

〔知事〕

そうですね。まあ何にしても手が掛かるものですよ。

〔参加者〕

今、その書道用紙も作りながら、知事の前にもあるものなど。

〔知事〕

こういうもの（行灯）をね。

これがしかし非常に風合いがいいですね。

今あちこちで料理屋さんなどで使い出していますね、この大きいものをね。

非常に柔らかい感じがありましてね。

それでは少し需要も、こういうようなものが少しずつ出てきているんですね。

〔参加者〕

クラフトパークで「あかり展」をもうここ何年もやっていただいています、こういった明かりを皆さん、組合員で作りました。それがじわじわですが動き始めました。

〔知事〕

今度はそうは言っても、どういうところかな、材料屋さんとか、そういうところに出さなければいけないでしょう。

例えばお店を作る、そしてインテリアをやるわけですが、そういうところで買ってもらうということですね。

〔参加者〕

こういった明かりとかは、こちらにある大きいのも一応クラフトパークのほうで「あかり展」というのを何年かやっています、そちらのほうで組合員の人も新しい物を作ろうということで努力して考えてやっているんですよ。

それをきっかけに見に来てくれた方、お店の方とかでホテルのほうで置いてとか、少しずつですが。

間にインテリア関係の人が入ると、ちょっとなかなか難しいものがありまして、今は一対一の相対というふうな形でデザインを書いてコンセプトを提出して、お話をしながらこんな明かりがありますよみたいな形で今は物を作っているということもありますね。

〔知事〕

じゃあもう本当に最終需要者というか、例えばお店ならお店の経営者が見に来て、ああこれはいいなど、じゃあうちのお店にこれをというような話で相対です。

そういうことをPRしているのはホームページももちろんあるでしょうけれども、主としてはクラフトパーク（富士川地域地場産業センター）でやっているんですか。

〔参加者〕

後は個人、私のところは個展とかギャラリーで展覧会をしたりして、それでお客さんを掴んでいくという形ですから、問屋さんが間に入ったりという形だと、そこにマージンが発生するとなかなか価格的な問題がありますので、そういう相対みたいな形で商売をさせていただいております。

〔知事〕

皆さん方、やっぱり同じようにお作りになるんですか。

〔参加者〕

大体、皆作っております。

〔知事〕

同じ物をみんな作る技術を持っているんですか。

〔参加者〕

いや、ここまで良いのは・・・（笑い）

それぞれ腕というか、感覚、センスがありますので、やはり売れるのは良い物です。

〔知事〕

社長のところはどのぐらいのものですか。

[参加者]

いや、僕の明かりは余り良くなかったですね。

[参加者]

壁紙のこういうものを作っているんです。

[知事]

さっきそこで拝見した物ですね。これはアトピー性皮膚炎なんかにはならないんですよ。

[参加者]

シックハウスのお子さんを持っている設計士さんの方が、化学薬品を一切使わない紙が欲しいということで、和紙の里のほうに制作の協力を依頼しまして、そして何とかここまで出来たというものです。

[知事]

これは失礼ですが、普通の壁紙に比べれば大体何倍ぐらい高いものですか。

[参加者]

普通の壁紙より、ちょっと聞いた話では多分5倍ぐらいになっちゃらしいです。

それと同様に貼る手間もありまして、和紙ですから工賃のほうもちょっと高いので、これも自分で貼ったんですが、こういうふうには和紙は自分で貼ることが出来るので、そういったことも謳いながらやっております。

県外でも実際に紙だけ買われて、あとは自分で貼っているという方もおられます。

[参加者]

私の家でもいろいろやっているんですが、主に、この西嶋で30年ぐらい前から書道用紙以外で何か産業ということで賞状を手がけてきたんですが、その責任者をやっています。

知事さんに先ほど（賞状を）見てもらいましたが、最初は30年前、地元の小中学校からこつこつやってきまして、やはり値段が高いので、最初なかなか使って下さる学校も少なかったんですが、徐々に30年掛けて県内の高校を中心に受注も段々増えてきました。県立短大は、ずっと最初の時から使用してもらったんですが、2年前から短大はなくなりまして県立大学になりました。

ここ2年卒業生がいなくて、来年から卒業生が出ますので、是非とも引き続き使用していただけるよう知事さんのほうから一言言っただけであれば、よろしくお願いします。

特徴は、校章を透かして入れるのが特徴で、あと三極みつまたを使った材料がいいということと、独自性、あと本当に誇れる卒業証書ということで、どうしても値段が高いので敬遠されるんですが、その辺を一押しでお願いしているので、是非ともよろしくお願いま

す。

〔参加者〕

是非関係の感謝状とかも使っていたらいいかな。

〔知事〕

これは印刷はしてくれるんですか。

〔参加者〕

注文によって一括して文面とか名前書きもしますのよ。

〔知事〕

そうですね。よく話をしておきますね。営業には行ってもらって（笑い）

〔参加者〕

毎年一年に一回営業の勉強を兼ねてみんなで全部の学校を回らせてもらって、その時に県立大のほうにも行かせてもらっていますので、顔は知っているかと思うのでよろしくお願ひします。

〔知事〕

社長のところほどのようなものを特に。

〔参加者〕

うちの場合は機械製紙なんですよ、手漉きじゃなくて。

元は書道用紙から出ていますけれども、今、神社仏閣で使う「お神明」とこの辺では言ひますよね、ああいうしめ飾り用のものを作っていますし、テンプラ用紙とか食品関係の紙もちよつと扱っていますよ、やっぱり考えてみるとどうしても書道が強いんですよ、ここは。

だから他の紙を作っても意外と書道まで売り上げが伸びないんですよ。

だからその辺をもう少し脱皮しないといけないのかなと思ってはいるんですが・・・

〔知事〕

書道が元で、書道用紙が強いんですよ。

それからいろんなものに使ってもらおうように営業をやらなければいかんだけれども・・・

〔参加者〕

やっていますけれども、そんなわけで今苦しいには苦しいですよ、確かにね。

〔知事〕

まあいろいろ、おそらく考えてみれば、お客さんのほうでもこういうものがあれば使ってみたいという人は、たくさんいるんでしょうけれどもね。

ここのところが、なかなかうまくマッチングしないですね。

〔参加者〕

この間銀座に行った時に、あそこに行くときびっくりするのは値段の高さですよ。

便せんとか封筒がありましたけれども、まあべらぼうの高さですよ。

まあそうでないとあそこでは商売にならないでしょうね。

だからああいう紙を作れば、少しで利益が上がるんじゃないかと思って、今準備に入っているんですが。

〔知事〕

あそこは日本一地価が高いところですからね。

〔参加者〕

便せんが20枚入りで千円ぐらいかな、この辺だと50枚で50円ぐらいの（笑い）。それで売れるんですよ。

〔知事〕

名前が入っているだけでね、それだけでね。

〔参加者〕

山梨県なんか一軒しか入ってないんですよ、行ってみたら。

だから西嶋の紙がこれだけやっているから、何とかあそこに食い込みたいなと思っています。

それからもう一つ、ここは紙の産地、そして隣の町に行くとハンコの産地、鰯沢に行くと硯もありますし、これをうまく連携出来ればいいかなと。

〔知事〕

和紙と硯と、それとハンコとね。

〔参加者〕

これは文房具仕様とあって硯とかそれぐらいになりますけれども、これは書には付きものですからね。

何かうまく作れないかなと思っているんですが。

〔知事〕

書道用具展みたいなものを何かの場にセットで出展出来ればね。

全国の書道会がいろいろあるでしょうけれどもね。

そういう時にちょっと片隅にでも置かせてもらえれば、そうすればみんな見ていきますよね。

〔参加者〕

私のところは書道用紙が主でして、今組合の中で昔から38回目の書道展を行っていて、一応その担当になっていまして。

〔知事〕

ここで毎年やっているものですよ。

〔参加者〕

県下の小中高を対象にやっていますけれど組合で15年ほど前ですか、アメリカへ親善大使として和紙を漉きに行った時に、アメリカの学校を何校か回ったんですが、その繋がりで現在ヒューストンとかターナー辺りの高校からの参考出品ということで書道を広める意味でお願いして毎年何点か応募してきます。

今年は400点ぐらい来ましたね。

〔知事〕

あつちはやっぱり漢字で書いてくるんですか、英語を書いてくるんですか。

〔参加者〕

漢字で、一応お手本を送りまして、それにそって書いてくるということで。

〔知事〕

字は分かっているけれども、それをなぞって書いてくると。

〔参加者〕

意味は多分分からないと思うんですが、西嶋和紙を少しでも広げて・・・

〔知事〕

芸術の一つとしてとらえるんでしょうね。

〔参加者〕

とらえ方が違うので字の感じが芸術的な字もあります。いい参考になります。

それとあけぼの養護学校の方も参考出展で書いてもらって、少しでも書道を知ってもらう、西嶋和紙を知ってもらうということで・・・

〔知事〕

書道展も考えてみるとずいぶん長くなりましたね。

〔参加者〕

もう39回目ですから

〔知事〕

そうですか、それはもう本当に歴史のあることですね。

〔参加者〕

私のところも機械製紙をやっておりますし機械で漉いております。

この身延町全体を見て、中部横断道が出来るのは良かったなと言うと同時に、よっぽどしっかりしないと遊びに行くのは楽になったけれども、みんなが寄ってくれない町になるおそれが大分ありますので、その辺を今後我々の紙もそうだし、下部の温泉街もそうだし、身延山もどうだろうかということが話になるんですが、もっとみんなで連携したものをやらなければいかんのかなと。

セットで一つ身延町のブランドを知事さんに宣伝していただきたいなということをお願いしたいんです。

下部町の活性化委員会というのがありまして、そこで毎年味噌を造っているんです。

県外から人を呼んで、これが年々多くなって、来年からは旅館が自分のところで団体を連れて来て、そこで造ってみたいような話も出ているようですが、そこまでやってきたというのを聞きましたので、ああそれぞれみんな努力してやっているんだな、そしてそこへ来た人達と一緒に紙を見てもらったり、あらゆるものをセットにしてやってもらいたいなと。そういう面で相当力を貸していただきたいというふうに思います。

〔知事〕

中部横断道があと10年以内に必ず出来ますから、そうすると、そろそろおっしゃるようにそれを使って地域の活性化をしなければ、通るだけになっちゃう。だからやっぱり活性化の構想を作らないといけないですね。

昨日、市町村長会議というのがあって、そこでもそういう話はみんなにしておきましたけどね。

じゃあそれを使ってどうするんだと、人が交流はするようになると。それをじゃあここへ下りて、合わせて観光でももちろん何でもいいし、あるいはこういうものを買いに来る人もいるし、見に来る人もいいですけども、そういうことを一緒に振興していかないと意味がないですね。

〔参加者〕

セットで考えなければ大変だなと、そういう面を是非、いろいろな面で県外へ出ていろいろ宣伝していただきたいなと。

まあそんな話ばかりしていて、自分の話もしなければ・・・。

やっぱり書道用紙を作っています。

それからもう10年ちょっとになりますか、和紙風のコピー用紙というのを作りまし

て、これが結構一時売れたんですが、ここいろいろの景気が悪くなったということと、もう一つは使用する紙が今まで官庁は全部B4がA4に変わっちゃったんです。

あれと同時にがくっと落ちちゃって大変になってきたんですが、それはそれでまた何とか宣伝していかなければいけないなというふうに思っているんですが、ただ市川の障子紙でも何でも同じですが結構ホームセンターやいろいろなところで大手で売ってもらうのは確かに売れるような気もしますが、大手ではものすごく厳しくて、あれはもう買って売るじゃなしに委託販売です。

余れば全部返ります。だからもう大変なんですよ、そういう面が大変だと思います。

先ほどもちょっと出たように、あとお願いしたいなと思うのは西嶋には紙あり、それから隣の町は早川町に行きますと硯があるわけです。

前に書道の先生と話をした時に、硯とか紙とか二つ以上の揃っているところはそうは全国見てもないだろう。

それからしたらもう少し小学生や中学生に書道をやらせることを考えていただきたいなということをお願いしたいと思います。

〔参加者〕

「あかり展」に出させてもらったんですが、今書道紙が主流で、私一人で今漉いていて女房が干しているんですが、生産量が上がらないので注文いただいてもなかなか作れないという現状なのが一つ。

あと販路ということで一応この和紙の里に置かせていただいたりとかしているんですが、その販路をどんなふうに生かしていくかということですが、出来れば今度西嶋の和紙展を県の施設の日本橋にあります「富士の国やまなし館」を活用させていただきたい。

〔知事〕

「富士の国やまなし館」には頼んでいないんですか。
簡単に出来ますよね。

〔参加者〕

去年みんなで漉いたものを、ちょっと巡回展みたいな形で置かせてはいただいたんですが、ギャラリーっぽくないというか、明る過ぎて明かりにはちょっと不向きだったので。

〔参加者〕

明かりだけでなくもいいんですが、西嶋の紹介ということで、10年ぐらい前ですが東京のデパートでイベントを1週間ぐらいやったんです。

皆さんすごい活気があって、よし今度こういうものを作ろうということで意欲があって、すごい大盛況だったんです。

〔知事〕

デパートでどんなイベントをやったんですか。

〔参加者〕

西嶋の漉くから書くまで、先生に来ていただいて実演していただくというようなことで全部紹介をしたんです。

結構盛り上がったんです。そういったこともまた東京で出来れば。

〔知事〕

そうですね、今、人が来るのは実際実演して見せないとな、来ないですよ。

〔参加者〕

あと1メーカー1品ということで新しいものを作っていくとまた違うのかなと、そういう試みでやっては来たんですが、皆さん自分の仕事も忙しくて、自分も含めてそうですが、なかなか新しいものが出来ないんですよ。

あと知事さん、こっちの峡南方面にはクラフトパークだけが県の施設であるんですが、今から施設を造れとは言いませんけれども、「かいてらす」（甲府・国中地域地場産業振興センター）などは巡回バスが出ていますよね。

こっち方面もそういうふうな、人が流れてくるような、何かそういうことも考えていただけると

〔知事〕

「かいてらす」は今、巡回バスがあるんですか。

〔参加者〕

甲府から行っていますよね、あれは山交バスさん独自でやっているんですか。

〔知事〕

山交のバスが、路線があるということですね。

〔広聴広報課長〕

愛宕山の科学館に行くバスが経由するようになりました。

〔参加者〕

ちょっと勘違いでしたが、せっかくこういういい施設があるので、もう少し観光客などへのアピールができるのでは。

〔知事〕

この峡南では、やっぱり観光の拠点といえば身延山、下部温泉、あとここですかね。あとどうでしょうどれがあるでしょうかね、クラフトパークがあるし、あとは・・・

〔参加者〕

身延町ですと大体3カ所ですね。

〔参加者〕

常時、開かれて泊まれて、実際に体験してというのは本当に身延町は良い所だと思います。

〔工業振興課長〕

先ほどの、例えばデパートで見本市をやりたいということは、「ブランドチャレンジ事業」というがございまして、最高2分の1補助ですが、最高250万まで私どもご用意出来るんですよ。

〔知事〕

それだからまあ2分の1、皆さんに250万を払ってもらいます。

〔工業振興課長〕

100万ご用意して、県が100万出して、200万で出来ると、そのぐらいのことは出来るわけなんですね。

〔参加者〕

最初、デパートでやった時には、やっぱり県の補助金をいただいてやりました。

県と町から出していただいたものと、商工会から多少見ていただいたということで最初は始まったんです。

それから2～3年間は町からだけ出していただいてやっていたんです。

〔参加者〕

県の補助金もいただきながらホームページも作ったんですが、やはりそれだけでは、実際に私達が足を運んで、やはりお客さんと話をしながら売り込みに紹介するというのが必要かなと思いますので、是非日本橋に（富士の国やまなし館という）素晴らしい施設があるそうですので利用させていただきたいなと思います。

〔知事〕

これは頼めばいつでも、もちろん1年のスケジュールがありますからね、頼めばそんなに別に金が掛かるものではなくて、ただいろいろ持ってきて展示はしてもらわなければいけないけれども、出来ると思いますね。

〔参加者〕

和紙の里の職員です。

和紙の里は地場産業であります西嶋和紙の活性化のために、平成10年にオープンいたしました。

現在3町が合併いたしましたして、合併以来、身延山や竹炭組合または湯の奥金山博物館とのコラボレーション事業を進めております。

新町全体で取り組んでいる事業がたくさんございます。

県の工業デザインセンターとは、平成18年と今年度も、「環境配慮型和紙製品に関する研究」と、「天然由来素材によるインテリア用和紙の製品の開発」に取り組んでおります。

全国的に有名な越前和紙、美濃和紙に負けない和紙が現在漉かれつつありますので、是非PRをお願いしたいと思っております。

また、先ほどから出ていますが、卒業証書漉きや各種体験で学校の総合学習の授業とか、あるいは家族連れなど、県内外から多くのお客様にご利用いただいております。

公共施設ですが、少しでも収入を増やすために新しい体験の考案や新商品の開発、それから自然素材にこだわった古来からの製法等の調査に日々取り組んでおります。

伝統芸術を追求することによりまして新商品が生まれるということを私ども信じてやっております。

こういう本があります。「和紙とケータイ ハイテクによみがえる伝統の技」この中にちょっとそこを抜粋したものですからどうぞお読み下さい。

〔知事〕

これはここの和紙を言っているんですか。

〔参加者〕

いいえ、そうではありません。古来からの伝統の技を大切にしていくことによって、ハイテク技術のきっかけづくりになるというふうな内容の本です。

また今年度は「がんばる地方応援プログラム」というのが国の施策でありまして、和紙の里においても「古今和紙の追求プロジェクト」と名付けまして、新しいものの開発はもちろんです。伝統の技、素材等を研究してということで、西嶋和紙工業協同組合とタイアップしまして、いろんなことに取り組んでいくつもりですので、よろしくお願ひします。

また、今いるここは美術館です。

先日、県立美術館の課長さんがお見えになりまして、県でも新しい取り組みをされるということですが、美術館も含めましてまたこの和紙の里もさらなるご支援をいただければと思っております。

〔知事〕

県立美術館のミレーとか、ああいうものを県下の美術館に貸し出すということをやろうとしています。

〔参加者〕

課長さんのおっしゃるには、峡南地方はこの和紙の里が中心ですので、特に美術館もあります。

ここを拠点に考えていきたいということをお伺いしております。

[参加者]

西嶋和紙工業協同組合のほうで事務兼現場を担当させていただいております。

今、組合員が本当に従来の半分以下に減っておりますので、去年は委託で原料を持ち込みで蒸解して下さいということで原料を作るといことをしております。

それには琵琶湖の葦よしですね、琵琶湖の葦よしも毎年刈らないといけないのですが、中国物に押されて葦よしの簾すだれは出ないということで、最近では紙の原料にと、組合の原料よしの共同処理施設がございまして、そこで蒸解をさせていただくということで、琵琶湖の葦よしをはじめとしまして、それからバナナの幹の繊維ですね。

それから最近では都会の冷房を減らしてCO2の減少につながるということで、大手の企業が屋上緑化ということで屋上に野菜なり何なり、そういった緑を植えるということで、サツマイモは、比較的栽培も簡単で、お菓子のメーカーさんとのタイアップということで、そこで採れたサツマイモはお菓子のメーカーさんへ、蔓つるを紙の原料にといことで、今まだ試験段階なんです蒸解をさせていただいております。

原料の処理施設のほうはそういうことで委託のほうが増えてきております。

[参加者]

また県外に行かれた時には是非宣伝をしていただければと思います。

[知事]

何でも和紙の原料になっちゃうんですね。

[参加者]

植物はほとんど・・・。

[参加者]

植物であれば何でも紙になりますよ。

ただ問題は、最終的な一番の問題はどのぐらいのグラムが繊維として残ってくれるかが問題なんですよね。

[知事]

楮こうぞ、三桮みつまたということを昔は言っていたけれども、それは多少入っていていいわけですね。

[参加者]

それはそれでまたあれなんですけどね、ただ楮こうぞ、三桮みつまたというのは一本の木があって、例えば普通の木材パルプは一本の木をそのまま紙の繊維を取りますが、楮こうぞ、三桮みつまたの場合は皮だけを使うんですね、幹は使っていないんです。

[参加者]

岐阜や本県の森林研究所のほうで、払った枝、間伐、そういう杉、桧をチップにしたものを私どもの工場で処理させて頂いております。

比較的全国規模、まあ全国規模と言いましてもこちらから南のほうが多いんですが、これが琵琶湖の葦よしの繊維で作った紙です。

[知事]

これは葦よしの繊維だけでなく、他にもいろいろ混ぜてでしょうね。

[参加者]

葦よしだけでは無理ですね。

[知事]

なかなか風情がありますね。近江八幡市の、ここからご注文があったわけですね。この店はこれを売っているんですね。

[参加者]

元々葦よしの業者さんです。

[知事]

こういうことも出来るんですね。

[参加者]

規模的にちょうどいいというふうに、大きな製紙工場さんからの依頼がありまして、サトウキビの砂糖加工の絞りかすとか、大手の製紙工場さんでは規模が大き過ぎて出来かねる事も私共は全国的に見てもちょうどいい施設というふうに思っています。

[知事]

あのプラントがちょうど大きさが良いんですね。

[参加者]

あと試験するには本当に良いんです。

だから結構大手から資源的なものを全部頼みに来ています。

最近大分そういうことで依頼を受けることが多くなりましたね。

[参加者]

うちは創業72年の歴史と、伝統産業であります西嶋和紙を一日でも長く続けようと、4人で一丸となつてがんばっております。これからも大変ですががんばっていきたいと思っています。

〔知事〕

創業72年、創業した頃は西嶋も賑やかだったでしょうね。（笑い）

全く西嶋の町の中に入ってみるとずいぶん、例えば神社など立派な神社だしね、かつてはやっぱり本当に栄えた所だったんでしょうね。

〔参加者〕

年寄りだから言うけれども、うちの親父が組合長をしていた頃、従業員を日帰りできつと連れていくとバス3台から4台にはなったんですが、今は1台でも余るような状況で、（笑い）えらい違いだなというのが、だからほとんどが紙に携わった仕事をしていたという感じですね。

〔知事〕

そうですね。

〔参加者〕

若い人が一生懸命やってくれていますので、我々働くものとしては、なるべくその人達にがんばってもらって、経営がうまくいって我々自身の生活がよくなるようにしてもらいたい。

そのためには県のほうからも若い人達の事業になるべく協力してもらってやってもらいたいと思います。

〔知事〕

そうですね。

今日、一番若い人、どうですか。

〔参加者〕

協同組合の和紙の原料を作る工場で働いています。

4月から働き出したんですが、最近ようやく慣れてきたところです。

楽な仕事はないと思うんですが、この仕事も確かに大変なんですけど作業が伝統的というのは大きな喜びの仕事だと思います。

和紙というのは本当に身近な物で、いろいろなところにも必要とされていますし、身に付けると思うので、そうした時に西嶋のことを思い出して下されば幸いです。

〔司会〕

最後に知事のほうからまとめ、感想を含めてお願いします。

〔知事〕

皆さん本当にありがとうございました。

お一人お一人大変苦勞なされながら、ご自分の事業を継続させ、そしてそれぞれが新しい分野に未来を開こうと努力をしておられるということがよく分かりまして、本当に心強く思うと同時に、県としても是非そういう皆さんのご努力を何とかバックアップしたいという思いでいっぱいです。

色んなことが出来ると思っておりますけれども、一つ感じたのは、こうやって努力をしておられるんですが、やっぱり皆さんのそういうお作りになっている物について、お客さんのニーズというのは探せば幾らでもあるような気がしますね。

なかなかやっぱりお客さんのニーズに合わせるのが大変。

まあ言ってみれば営業ということですが、なかなか皆さんそれぞれ自分の仕事をしながら営業というわけにもいかないし、その営業というか、お客さんのニーズといかに合わせていくか。

そのためにはやっぱりおっしゃるようなイベントをやってみたりとか、もちろん山梨県を使ってもらうのももちろんいいですし。

「かいてらす」など、ああいうような場ですとか、いろんな場で皆様方のお作りになっている良い商品というものが人々の目に触れることが大事ですね。

そういう機会をもっと何とか作れないかなという感じがしますね。

余り売れ過ぎちゃっても今度は困るんだよね。（笑い）

余り一度に注文が入っても困るんだけど、まあ毎年着実に増えていくような、そういう状態になればいいですよ。

そうすればやっぱり後継者も出てくるし、是非そういうふうにもっていきたいものだと思いますね。

我々も一生懸命応援をしますので、是非これからもがんばって下さいますようによろしくお願いします。

〔司会〕

ありがとうございました。県では皆様のご意見、要望などを寄せていただく県政クイックアンサーという制度もあります、役場にも用紙等があります。それから県のホームページを利用しても出来ますので、是非ご利用していただいて意見交換をまた続けて行きたいと思えます。

ありがとうございました。

〔理事長〕

最後に、一番私達が弱く、ここを是非とも知事に補っていただこうと思っておりますのが、西島和紙のPR活動です。

知事にPR大使に依頼し、委嘱状をお渡しします。

（一同拍手）